

ABEST21 理事長報告

=====

- ・ 5月24-26日、シンガポールでの『認証評価計画』セミナーに出席
- ・ 5月26日、名古屋での『自己点検評価報告』セミナーに出席
- ・ 5月28日、ABEST21での『認証評価』受審説明会の開催
- ・ 5月31日、第7回「マネジメント人材育成協議会」に出席

ABEST21 認証評価ニュース

=====

・ **ABEST21 『認証評価計画』セミナーの開催**

5月24-26日、シンガポール SP Jain Center of Management で、ABEST21 認証評価基準及び認証評価プロセス等の説明のため、セミナーを開催いたしました。SP Jain Center of Management は、去る3月5日の理事会において ABEST21 認証評価の受審が承認され、2010年度は MBA プログラムについての「認証評価計画」の審査を受けることになっています。SP Jain Center of Management の認証評価タスクチームの委員に集まっていただき、ABEST21 の認証評価基準及び認証評価プロセス等について説明し、「認証評価計画」をどのように分析し、改善課題を解決していくために PDCA サイクルをいかに稼働させていくかについて議論をしてきました。



・ 『自己点検評価報告』セミナーの開催

2010年5月26日(水) 南山大学(名古屋)において、受審校である南山大学大学院ビジネス研究科及び京都大学大学院経営管理研究部を対象に、認証評価審査の第二段階にあたる『自己点検評価報告』の作成セミナーを開催しました。ABEST21 側から専門審査委員会委員長である堀内正博教授が出席し、『自己点検評価報告』の分析の目的等について説明し、質疑応答をいたしました。認証評価が未来の価値創造にあることの意義を理解し、ギャップ分析において改善課題を見つけ出し、その解決に向けた実行計画の策定及びその履行により、教育の質維持向上が図られていくことへの理解を深めていただきました。

・ **経営分野専門職大学院の『認証評価』説明会の開催**

2010年5月28日(金) ABEST21 オフィスにおいて、経営分野専門職大学院の認証評価について、2010年度受審予定のされている専門職大学院(経営分野)を対象に、説明会を開催しました。一番の関心は他の認証評価機関の認証評価方法との違いにあり、ABEST21 は認証評価が未来の価値創造にあることの意義を説明し、ギャップ分析により教育課程等における改善課題を見つけ出し、その解決に向けた実行計画の策定及びその履行により、教育の質維持向上を図ることに主眼をおいていることを強調しました。特に、下記の視点から評価していくことの重要性についての理解を求めていきました。

- 1) グローバルな視点からの評価
- 2) 個性の伸長に資する視点からの評価
- 3) PDCA サイクルを稼働させる視点からの評価

- 4) マネジメント分野の専門的な視点からの評価
- 5) ピア・レビュー(Peer Review)による評価
- 6) 透明性の高い国際社会に開かれた評価

・『行動計画履行状況報告』の審査

2008年度認証校、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻、一橋大学大学院国際企業戦略研究科経営・金融専攻、神戸大学大学院経営学研究科現代経営学専攻そして筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻より、2010年5月31日までに2009年4月1日から2010年3月31日までの課題解決の行動計画についての履行状況報告が提出されました。ABEST21は「2009年度行動計画履行状況報告」の審査のために「履行状況審査委員会」を設置し、各校の「自己点検評価報告」で分析した「課題解決の実行計画」を提出した「2009年度行動計画履行状況報告」で検証していくことになりました。各認証校の「2009年度履行状況」はABEST21のホームページに掲載することを予定しています。

ABEST21 ニュース

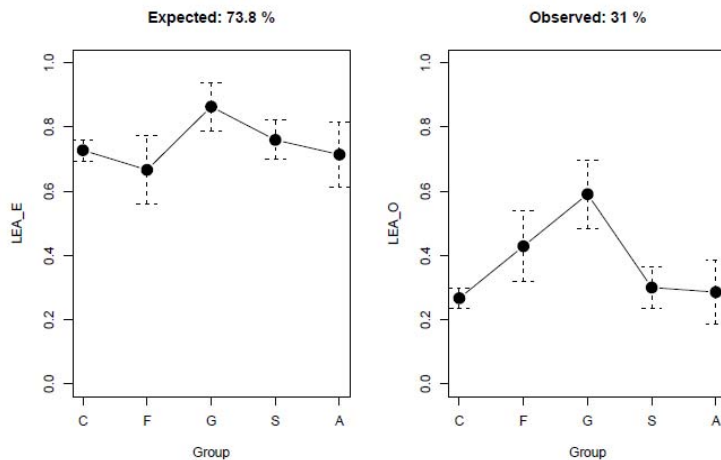
=====

・シンガポール研究会の開催

5月号において既にご案内いたしましたように、2010年7月2日～3日、シンガポールのSP Jain Center of Managementでマネジメント人材に関する力量国際調査の最終研究発表会を開催いたします。この国際調査に参加したAoyama Gakuin University(Japan), University of Applied Sciences Hof.(Germany), University of Brawijaya(Indonesia), Chang Mai University(Thailand), Fudan University(China), University of Indonesia(Indonesia), Institut Teknologi Bandung(Indonesia), Kwansai Gakuin University(Japan), Management & Science University(Malaysia), Nanzan University(Japan), Northeastern University(China), Pondicherry University(India), そしてSP Jain Center of Management(Singapore)であり、各校の行った調査は大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所に分析を委託いたしました。シンガポール研究会で各校より調査結果の概要を報告し、統計数理研究所の榎教授より全体の分析結果についての報告をしていただきます。現在、国際調査結果報告書(英文)を作成し、研究会に配布する予定です。

右図はMBAホルダーの力量に関する期待と実際(観測)の関係を示した図である。例えば、この分析は、中国の図であるが、期待と実際との差異は42%も離れている。また、リーダーシップスキルについては、期待は修了生が企業の期待より有意に高い傾向がみられる。実際については、修了生、教員は企業に比べてかなり実際にリーダーシップあると考えている傾向がみとれる。この図では、MBAホルダーが有す可能性のある専門知識について、左図が描く

Leadership Skills



くステークホルダーが期待する率と±標準誤差、右図のステークホルダーが実際にMBAホルダーが保有していると認識する率と±標準誤差が打点されている。

「マネジメント人材育成協議会」ニュース No.7

=====
2010年5月31日(月)、学術総合センターにおいて、第7回「マネジメント人材育成協議会」が開催されました。前回に引き続き、2009年度活動報告 第一次報告 において議論してきているマネジメント人材育成の教育のあり方について、産学間での意見交換をしてきています。当初に比べ大分産学間の隔たりが短縮されてきたように思えます。まだ産学間に溝はありますが、マネジメント人材育成の必要性についての共通認識は形成されてきていると考えます。共通基盤が構築されますとこれから具体的な問題の討議に進んでいけるのではないかと願っています。



以上